

溶解から完成品まで 一貫生産する精密合金材料メーカー

株式会社東京ワイヤー製作所

1916（大正5）年、創業者の山田豊吉氏が、東京ワイヤー商會を設立し、エナメル線の販売を始めたのが同社の始まりだ。8年後には、東京都板橋区に電気抵抗合金線やエナメル線、絹巻線の製造工場を立ち上げ、昭和初期に工場を現在の大田区に移転し、関東大震災や太平洋戦争、オイルショックなどの多くの困難を乗り越え、創業100年超の歴史を刻んできた。現在は製造部門を岩手県に移管しているが、熱電対・補償導線、電気抵抗合金など、原料の溶解から最終製品まで一貫生産体制を持つ国内唯一の精密合金材料メーカーである。

● 社是・理念

私達の会社は、自分達の固有技術—創造力—で裏づけされた豊かな感性—独創力—で、“夢のあるものづくり”をしたいと考えています。

私達が原材料の溶解や金型の設計～製造から最終製品、例えば温度センサー・補償導線や電気鍍金線材を一貫生産し、さらに超電導線や生体材料の新しい分野にチャレンジしているのも“夢のあるものづくり”に私達の夢と可能性を託しているからです。

私達は、社会の変化とニーズに的確に対応出来る製品の開発に取り組み、“夢のあるものづくり”を目指しています。

私達の会社は、色々なことをやっている会社です。そして、色々なことをやろうとしている会社です。



代表取締役

山田 洋義 氏

◎ 自社固有技術に基づくものづくりがこだわる

100年を超える歴史について、3代目となる山田洋義社長は、「自社技術を基盤とする原材料メーカーに徹し、創業以来3代にわたり精密合金材料の溶解から最終製品までを一貫生産する形態を守り続け、その時代に即して、対応してきたことが大きい」と話す。

一貫生産による短納期、コスト対応力も大きい。顧客から納期や価格、あるいは仕様に関してさまざまな要望が寄せられても、自社で完結できるため柔軟に対応できる。これが多い顧客の信頼獲得につながった。しかも同社は、古くから多様な合金材料の生産に取り組んできたため、製造設備の多くを内製している。顧客が抱える開発課題に対して、開発目的に最適な製造設備を自社開発できるので、開発段階から実効性のある提案が行えることも強みの一つだ。さらに自社技術や設備を



原材料の溶解から手掛ける

●長寿の秘訣

「創業以来、目の前の現実を淡々とこなしてきただけ」。こう自社の歴史を振り返る山田社長の言葉ににじむのは、肩肘張らず、背伸びせず、モノづくりに徹してきた100年の誇りと自信だ。最新の設備導入により、「効率を求めれば、無駄が増える。時間を大切にすれば利益はついてくる」という氏の持論は、混迷を深める日本のモノづくりに対する提言なのかもしれない。



岩手県一関市にある花泉工場

●会社概要

創 業：1916（大正5）年12月

所 在 地：東京都大田区西六郷 2-30-9

資 本 金：4,000 万円

事業内容：精密電気抵抗材料、熱電対・補償導線、電気鍍金材料の製造販売

社 員 数：45 名（2019 年 12 月現在）

URL：<http://www.twire.co.jp/index.html>



主要製品群（上）と自社ブランド「パームソー」（下）

融合した新たな製品展開も見られる。現在当社には、電気抵抗合金、電気鍍金、超電導の3つの事業部門があり、超電導部門として国際熱核融合炉（ITER）計画に用いる超電導線のクロム連続電気鍍金加工技術を開発した。この開発したクロム鍍金加工技術は、熱核融合炉の実用化とともに、その将来性が期待される。山田社長は「電気鍍金と超電導の合わせ技。当社独自の生産技術を生かせば、新製品開発にもつながる」と見ている。

最近では、岩手県の依頼で、難加工材のコバルト・クロム合金線材の加工法を確立したのを機に、3D構造の複合撚り線ワイヤソーを開発。医療向けに需要開拓する一方、アウトドア用品として、同社初の自社ブランド「パームソー」をウェブ販売している。今後も原材料メーカーの立ち位置を基本に、夢のあるモノづくりをモットーに、研究開発を続けていく方針だ。